

OKAMOTO

税務経営情報

〒612-8213 京都市伏見区東浜南町691-21 VIPエスポートビル2F

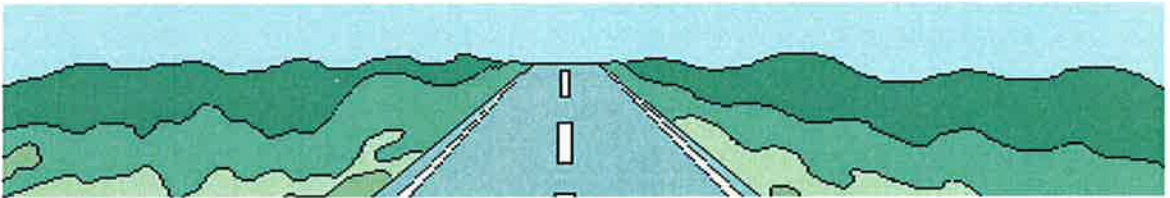
税理士 岡本清臣

社会保険労務士 岡本清彦

TEL 075(604)1521 / FAX 075(604)1531

E-mail o-keiei@mbox.kyoto-inet.or.jp

Going Concern (企業は継続なり)



夢 ・ 勇気 ・ 実行

～修行～

8月の第一の土曜日と日曜日に大峰山で修行をしてきました。今年で5回目なのですが、まだまだその世界では新米です。その世界というのは、私はある「講」に属しており、その「講」というのは、200名強いる結構大きい団体です。私は特に普段は活動に参加しているわけではないのですが、この大峰山での修行だけは参加しております。

この大峰山は、2004年にユネスコの世界遺産として登録されており標高1,719メートルあり奈良県吉野郡天川村に位置します。この一帯は古くから修験道（修験道とは、山へ籠もって厳しい修行を行うことにより、様々な「験（しるし）」を得る事を目的とする神仏が融合した宗教である。修験道の実践者を修験者または山伏というそうです。）の山として山伏の修行の場でありました。そこに、なぜ私が参加しているかと言いますと、もちろん修行としてなのですが、この「修行」が何のためなのかということです。私にとって「修行」とは、体に負荷をかけることによって健康を維持することはもちろん、修行というのは自分だけのためではなく、家族やみんなの代わりに自分が苦しい修行をすることによって、みんなが幸せになるということに繋がると言われているからです。

大峰山の修行には、まず登る1週間ほど前から修行として食事の摂生があります。四つ足のものや魚などを食べてはいけないそうです。というのは、山自体はそれほど高くないため、精を抜くためといわれています。しかし、現実には外食などしたら食べるものがなくなるのであまり出来ませんでした。

そして当日の修行としては、朝7時ぐらいに大峰山の麓にある洞川温泉の龍



泉寺で行う「水行」です。朝早いのもありますが、とにかくこれが一番辛い。湧き水のため水温が低い池に禪一枚で入り、お経を唱えるのです。子供達も一緒にいるのですが、あまりの冷たさに泣き出す子もいます。私も初めて浸かった時はあまりの冷たさにすぐ出てしまいました。よくサウナとかに入った後に水風呂に浸かりますが、そんなの比になりませんよ。集中してお経を唱えないと浸かっていられなくなります。終わった後は冷たさで血管が縮んでいるので足が痺れていますし、全身低温やけどで真っ赤になっています。しかしこの「水行」が終わると、ほっとします。

次の修行は、いよいよ白装束を着て杖をついて山に登ります。「講」によっては、一緒に登るところもあるのですが、私たちのところは各人のペースで登ります。途中山小屋があるので、休みながら登れます。途中登山者とすれ違おうと、「よう～まいり～」と声をかけます。「ようお参りなされたなあ」という意味なのでしょうか、必ず声をかけます。これが同じ修行をしているという結構連帯感を生み出す効果があるように感じます。

登っていくと「お助け水」という水がわき出るところがあります。名前の通りお水がわき出ており飲むことが出来るのですが、今年は雨が少ないのかほとんどありませんでした。これがないと水筒の水を飲むペースが狂います。というのは、この場所はちょうど真ん中にあるので、麓からもっていく水筒の水の量は半分で済むからです。しかしこの水がないとなると、残り半分水なしで登ることになります。今年は、食事の修行があまり出来ていなかったため、水をあまり飲まないで登ると決めていたので影響はなかったですが。

山頂では、本堂がありそこで全員で護摩木を焚いてお参りをします。それが終わると、山頂の宿坊で泊ります。ここでの食事は、もちろん精進料理です。おみそ汁と漬物、昆布とご飯だけです。それでも、おいしかったです。ご飯とおみそ汁は、何杯もおかわりができるのでたくさん頂きました。夕食が4時頃だったので、そのあとはいつものビールを飲みました。これもまた美味しいこと。山頂なので、1本500円もしましたが数本頂きました（この時間は修行ではないと思いながら・・・）。その日は朝早くから活動しているのと疲れで酔いがまわり、まだ日が沈んでいないにもかかわらず、お休みしました。

翌朝は3時起きで精進料理の朝食を取り、もちろんご飯のお代わりをしてすぐに下山です。もちろん辺りは真っ暗です。空を見上げると、星が大きく綺麗に輝いていました。最近の都会ではなかなかみられない景色ですね。

このように、私たちはいろいろな修行（体験？）をしながら今年も大峰山の修行を終えることができました。私たちにしてみれば、大峰山は修行の場と心得ていますが、最近はこの大峰山に登る趣旨が変わりつつあるそうです。登山者は、お弁当に唐揚げが入っていたり、健康を重視して登るといふ登山感覚で登る方が増えているそうです。悲しいことだと山頂で修行されている僧の方がおっしゃっていました。

そして私は家に帰るなり、ビールで乾杯をして普通の食事を楽しみました（それなりに苦しんだので）。また来年に向けてがんばるぞ！

（岡本 清臣）



～事業承継問題～

●●事業承継方法ごとの具体的な対策の実行●●

(3) M&Aを検討する場合 (Part. 2)

① M&Aとは

イ) どの様な手法を選択すべきか

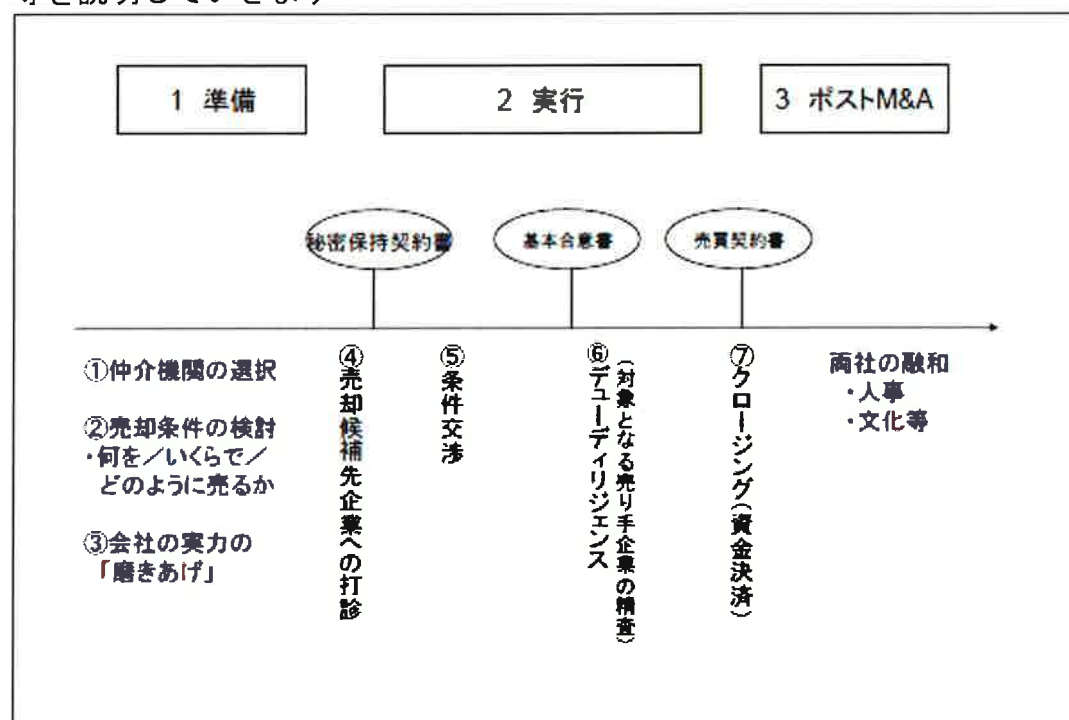
合併、株式の譲渡、株式交換は、会社を丸ごと買い手に引き継ぐこととなりますから、雇用や取引先の仕事が確保できる手法です。会社分割の場合は、労働契約承継法によって分割事業の雇用の確保が保障されますが、事業譲渡には、同法の適用がありませんから、従業員の雇用等がそのまま確保できない場合があります、注意が必要です。

また、会社分割あるいは事業の一部譲渡は、譲渡の対象を一部に限ることによって買い手が見つかりやすくなったり、経営者が手元に残したいと考える事業用資産等（例えば先祖伝来の不動産等が会社事業の一部に組み込まれている場合など）を残すといった使い道も可能です。

何れの方法を選択するのがよいかという問題は、それぞれの会社の事情によって異なるでしょうが、業績の善し悪し、特許等の技術の有無、営業力の高低、従業員の質や能力、優良顧客の有無等によっても選択の道が広がったり、狭くなったりします。以下で詳しく解説していきますが、日頃から会社の実力の磨きあげを行い、M&Aの選択肢を広げる努力をしておくべきでしょう。

② M&Aの手続き

M&Aの手続きは、以下のフローチャートにもあるように、大まかにいってア) 計画・調査等を行う準備の段階、イ) 実行の段階、ウ) M&A後（ポストM&A）の段階の3つに分かれます。以下で、それぞれの段階の注意事項等を説明していきます



ア) M&Aに向けた準備

M&Aにより会社を売却するという決心をした後、実際に相手先との交渉を行うまでには、仲介機関の選定や企業実態の把握、企業の「磨きあげ」など、事前に行わなければならないことが多くあります。

M&Aの事前準備段階を通じて、最も注意すべき事項は、いかにして秘密を守り、外部への漏洩を防ぐかということです。外部の第三者はもちろん、親戚や友人、役員・従業員に対しても知らせる時期や内容、話し方には十分注意する必要があります。

実際に、経営者のちょっとした一言でM&Aが頓挫してしまうケースがよく起こっています（事例11参照）

i) M&A仲介機関の選択

事業承継の方法としてM&Aを選択する場合、自力で一連の作業を行うことは困難である場合が多いため、専門的なノウハウを有する仲介機関に早めに相談するとよいでしょう。

仲介機関の候補としては、取引先金融機関や顧問税理士、弁護士、商工会議所・商工会、M&A専門業者などがありますが、選定にあたっては日頃の取引関係に加えてセミナーへの参加や質問等を通じて、安心して任せられることのできる先を選ぶことが大切です。また、仲介機関によって手数料も様々ですので、選定に当たっての判断材料の一つとするとよいでしょう

さらに、仲介を依頼する際には、会社の存続に関わる情報を開示することになりますので、情報漏洩に関するリスクを回避するためにも、秘密保持に関する契約等を仲介機関との間で交わしておくことが必要です。

ii) 企業実態の把握と売却条件の検討

仲介機関を決定した後、まず企業の実態把握が行われますが、その際には経営者自らが「どのような形で事業を承継してもらいたいか」について、要望事項を明確にしておく必要があります。

「現在の会社全体をそのまま引き継いでもらいたい」「一部を分離して残したい」「現在勤務している親族を残したい」など、様々な形態・条件が考えられます。

このような要望内容に応じて、M&Aの形態や売却金額、どのような相手先に打診すべきか等が決まってきますので、なるべく早い段階に、はっきりと仲介機関に伝えることが望ましいでしょう。

《「事業承継ガイドライン」より抜粋》

(岡 本 清 臣)

松翁論語より《PHP文庫》PHP研究所副所長 江口克彦

382. 松翁ある人に次のようにいわれた。

絶対安心という境地などありえない。心配をもっているのが当たり前。